

アイヌハンミョウ *Cicindela gemmata aino* Lewis

【選定理由】

河川の上流域から中流域にかけての河原等に生息する大型のハンミョウで、愛知県内では生息環境が限られていることから、県内での分布は限定的で個体数も少なく、生息基盤が脆弱である。加えて、生息地はダム建設や河川整備などで失われる機会が多い。

【形態】

体長 16～17mm。日本産は大陸に分布する名義タイプ亜種とは別亜種として区別される。普通種のニワハンミョウに似るが、上唇の前縁が波状となること、上翅の中帯紋は一樣な太さで波状となるなどの特長から区別できる。

【分布の概要】

【県内の分布】

矢作川水系、豊川水系及び木曾川水系の本支流各地。豊田市、設楽町、豊根村、新城市、東栄町、犬山市（戸田・長谷川・蟹江，2019）、江南市（蟹江・長谷川，1994；浅野，2011）。

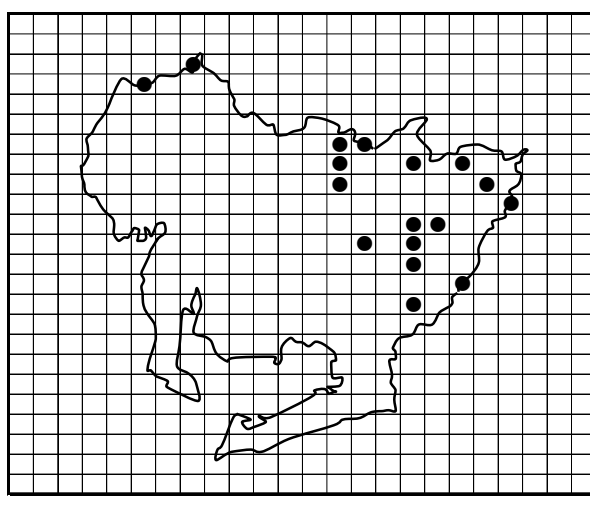
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、対馬。

【世界の分布】

日本、名義タイプ亜種が朝鮮半島、中国、シベリア南東部に、別亜種が中国（甘肅省）に分布する。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

県内では、主に河川中流域の礫が散在する砂質の河川敷に生息するが、三河湖（岩崎・蟹江，1990）でも記録がある。成虫は春～初夏に出現し、夜間や雨天時、低気温時には石下に潜む。体サイズが一回り小さいコニワハンミョウと混生することが多いが、コニワハンミョウに比べ個体数は明らかに少ない。

【現在の生息状況／減少の要因】

矢作川水系、豊川水系及び木曾川水系の本支流各地から生息情報が得られているが、いずれも生息地は狭く、生息密度は低い。減少の要因としては、ダム建設や河川の護岸工事、河川改修、砂利採取等により生息環境が失われたことに起因すると考えられる。

【保全上の留意点】

現在の生息地の保全に努める必要がある。現在の生息地周辺域での河川工事の際は、本種の生息に影響がでないよう留意することが求められる。

【特記事項】

三重県ではカテゴリー外であるが、長野県では準絶滅危惧とされている。岐阜県では本種の分布、生息状況について詳細な報告は知られていない。

【引用文献】

- 浅野 隆，2011. 愛知県におけるアイヌハンミョウの分布. 佳香蝶, 63 (248): 1-3.
岩崎 博・蟹江 昇，1990. 愛知県のオサムシ類. 愛知県の昆虫, (上): 309-338. 愛知県.
蟹江 昇・長谷川道明，1994. 愛知県におけるアイヌハンミョウの分布. 豊橋市自然史博物館研究報告, (4): 47-48.
戸田尚希・長谷川道明・蟹江 昇，2019. 愛知県の甲虫目録 3. 佳香蝶, 71 (277): 1-11.

【関連文献】

上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝編，1985. 原色日本甲虫図鑑(Ⅱ), 514pp. 保育社.

(長谷川道明・蟹江 昇・戸田尚希)